

## 薬剤師生涯学習の基本条件と、望ましい生涯学習環境

公益社団法人薬剤師認定制度認証機構

代表理事 内山 充

今やより良い社会環境を作るために、個人、団体、企業を問わず、他人頼みを脱して「自己責任」を念頭に置き、自由で適正な競争原理を育てることが求められている。薬剤師生涯学習環境も決して例外ではない。

社会環境を良くするには、属する社会を構成するすべてのものの協力が必要である。「自己責任」というのは、全員が、それぞれの立場で、より良い社会を作るために何ができて、また何をなすべきかを正しく理解し選択して行動する「自己選択権確立」のことである。それにより新しい社会的要請が生み出され、優れた環境が形作られる。

その時に、自分のことしか考えないで、自らの利益のための選択しかできないようでは、これからの社会に生きる資格はない。また、昨日までやってきたことを、今日また続けられれば良いという安易な生き方も誤りである。急激な変化と進歩の社会において役に立つ、最善の方策を選択しなければならない。

「生涯学習社会」とは、学んだことが報われる環境のできている社会である。それに向かって、先ずはわれわれ薬剤師一人ひとりが、生涯学習で身に付いた各自の専門職能を生かし、人々の健康に関する不安を解消し、あるいは生活条件を向上するために努力し経験を積む必要がある。その上で、意欲的な個人、あるいは職域並びに学術団体や関連企業が、医療や保健および疾病構造に起こりつつある変化と進歩を冷静に分析して、より良い生涯学習環境を作るために必要と思われることについて、積極的に発言し、かつ行動を起こす必要がある。それが薬剤師の日常活動を実証する証拠（エビデンス）となり、将来に向けて、より望ましい薬剤師生涯学習環境が見えてくるに違いない。

私は、**薬剤師生涯学習の基本条件**を次のように考えている。

- 1)生涯にわたって継続する。
- 2)教える側でなく学習者の意向が優先する。
- 3)学習者は、自己診断から始め、目標(キャリアパス)を定めて、計画的に受講する。
- 4)学習者は、研修等によって何をどの程度習得したかを自己評価し、次の研修を選択する。
- 5)生涯学習の目的は、職能向上と、その実務への反映であって、資格(認定証、称号等)の取得ではない。

また**望ましい生涯学習環境構築の方針**を、当面次のように考えている

- 1)「学んだことが報われる環境」が必要であり、それを作るには、職場、組織等の意思決定者の責任が大きい。
- 2)研修実施者は、研修の質に責任を持ち、第三者評価を受けることを原則とする。
- 3)研修の実施に当たっては、事前評価、到達目標設定、事後(習得度)評価に留意する。
- 4)研修実施者は、自らの責任で各受講者に受講証明(単位)を付与する。

5) 学習者は、自ら学習記録(ポートフォリオ)を作成し、研修等の履歴と成果を確認する。

6) 学習記録に対して正当な評価が行われ、研修歴の証明(認定)、あるいは特定(専門)領域における職能の保証(認定)、あるいは職務上のメリット付与、が行われる。

7) 各種の認定事業を行う機関は、第三者評価により社会的信頼を得ておくことが望ましい。

このような方針のもと、引き続き公益目的事業である薬剤師生涯学習の認証(アクレディテーション)を通じて、国内的にも国際的にも高く評価される薬剤師の養成に力を尽くし社会的責任を果たしたい。

(2010.12.18)